

平成26年3月期 決算ハイライト



平成26年3月期 決算の概要（総括）

- 経常収益は 55,409百万円（前期比△2,839百万円、2期連続の減収）
- 経常利益は 14,787百万円（前期比+2,836百万円、2期ぶりの増益）
- 当期純利益は 7,254百万円（前期比+ 893百万円、2期連続の増益）
- 全体としては、2期連続の減収増益。
- 単体自己資本比率は 12.46%となりました。なお、当年度末よりバーゼルⅢ基準による比率を算出しております。
- 金融再生法開示債権が総与信に占める割合（不良債権比率）は前期末比 △0.21%の 3.23%となりました。

(1) 損益の概要

【単体】

	25年3月期	26年3月期	増減額	増減率
経常収益	58,248	55,409	△ 2,839	△ 4.8%
経常利益	11,951	14,787	2,836	23.7%
当期純利益	6,361	7,254	893	14.0%
コア業務純益	17,098	16,606	△ 492	△ 2.8%

(単位:百万円)

【連結】

	25年3月期	26年3月期	増減額	増減率
経常収益	69,314	66,573	△ 2,741	△ 3.9%
経常利益	14,123	16,798	2,675	18.9%
当期純利益	6,994	7,855	861	12.3%

(単位:百万円)

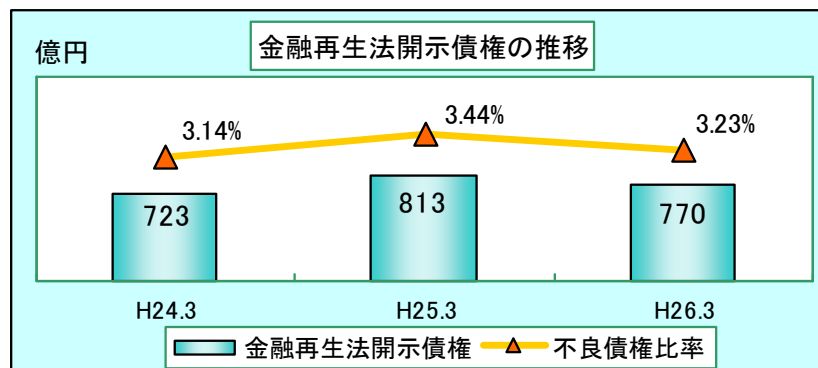
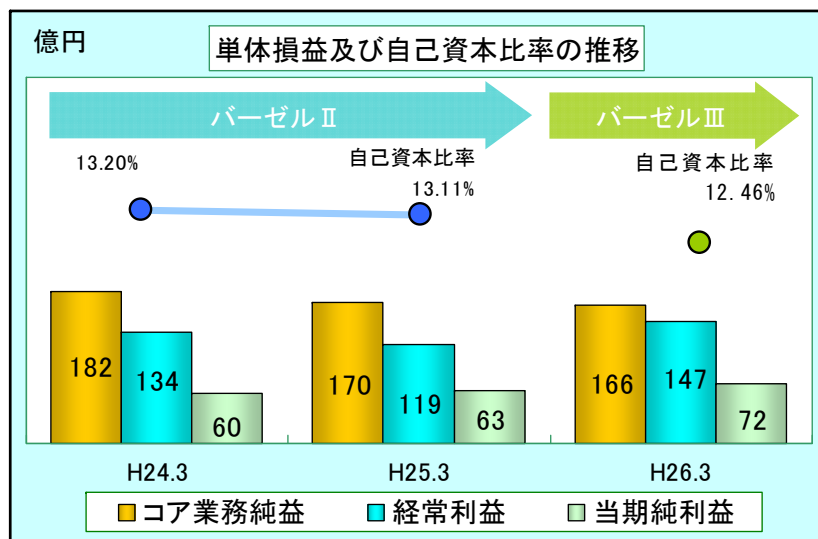
(2) 自己資本比率【単体】

	25年3月末	26年3月末	
単体自己資本比率	—	12.46%	バーゼルⅢ基準
(参考) 単体自己資本比率	13.11%	—	バーゼルⅡ基準

(3) 金融再生法開示債権【単体】

	25年3月末	26年3月末	増減
金融再生法開示債権	813	770	△ 43
(不良債権比率)	(3.44%)	(3.23%)	(△ 0.21%)

(単位:億円)



平成26年3月期 決算の概要（単体）

• 業務粗利益（除く債券関係損益）	46,384百万円（前期比 △ 567百万円）
• 経費	29,778百万円（前期比 △ 74百万円）
• コア業務純益	16,606百万円（前期比 △ 492百万円）
• 経常利益	14,787百万円（前期比 +2,836百万円）
• 当期純利益	7,254百万円（前期比 + 893百万円）

				(百万円)
		25年3月期	26年3月期	増 減
業 務 粗 利 益		50,433	45,925	△ 4,508
(除く債券関係損益)		(46,951)	(46,384)	(△ 567)
資 金 利 益		40,846	40,011	△ 835
役務取引等利益		5,773	6,114	341
その他業務利益		3,814	△ 200	△ 4,014
うち債券関係損益		3,482	△ 459	△ 3,941
経 費	(△)	29,852	29,778	△ 74
コ ア 業 務 純 益		17,098	16,606	△ 492
一般貸倒引当金繰入額 ①	(△)	△ 1,735	△ 252	1,483
業 務 純 益		22,316	16,399	△ 5,917
臨 時 損 益		△ 10,364	△ 1,611	8,753
うち株式関係損益		△ 1,988	806	2,794
うち不良債権処理額 ②	(△)	8,369	4,019	△ 4,350
うち償却債権取立益 ③		836	2,147	1,311
経 常 利 益		11,951	14,787	2,836
特 別 損 益		△ 2,664	△ 1,312	1,352
当 期 純 利 益		6,361	7,254	893
実質不良債権処理額 ①+②-③		5,798	1,620	△ 4,178

業務粗利益（除く債券関係損益） 前期比△ 567百万円
 ・ 役務利益は前期比増加したが、資金利益の減少が上回り、全体では前期比減少となった。

経 費 前期比△ 74百万円
 ・ 生産性の向上に努めた結果、人件費を中心に経費を抑え、前期比減少となった。

コア業務純益 前期比△ 492百万円
 ・ 資金運用利回りの低下による資金利益の減少が主因。

経常利益 前期比+2,836百万円
 ・ コア業務純益は減少したが、実質不良債権処理額が前期比減少し、経常利益は前期比増加した。

有価証券関係損益 前期比△1,147百万円
 ・ 債券関係損益 前期比△3,941百万円
 前期に債券の売却を実施したことによる影響。
 ・ 株式関係損益 前期比+2,794百万円
 保有株式の一部売却により売却益を計上。

実質不良債権処理額 前期比△4,178百万円
 ・ 大口の不良債権発生等が無く、不良債権処理は低水準となった。
 中間期の見込み額（通期3,300百万円）を下回る水準となった。

特 別 損 益 前期比+1,352百万円
 ・ 不動産の減損処理費用が前期比減少した。

当 期 純 利 益 前期比+ 893百万円
 ・ 経常利益増加により前期比増加。

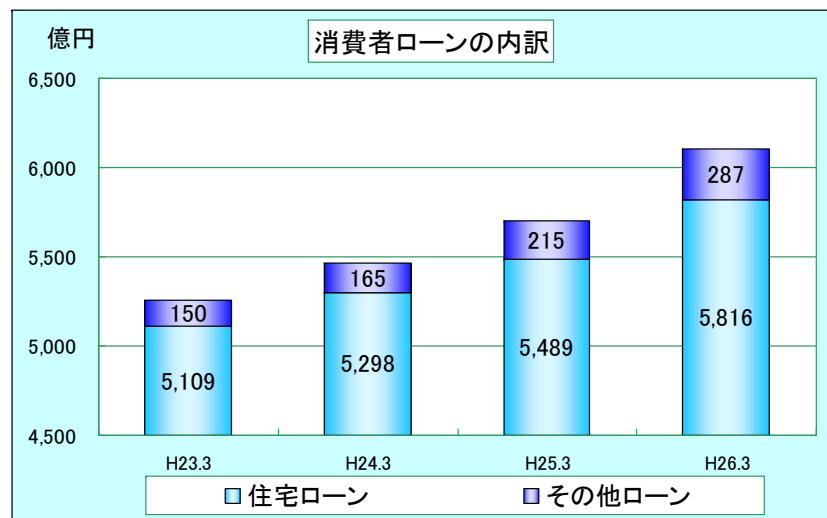
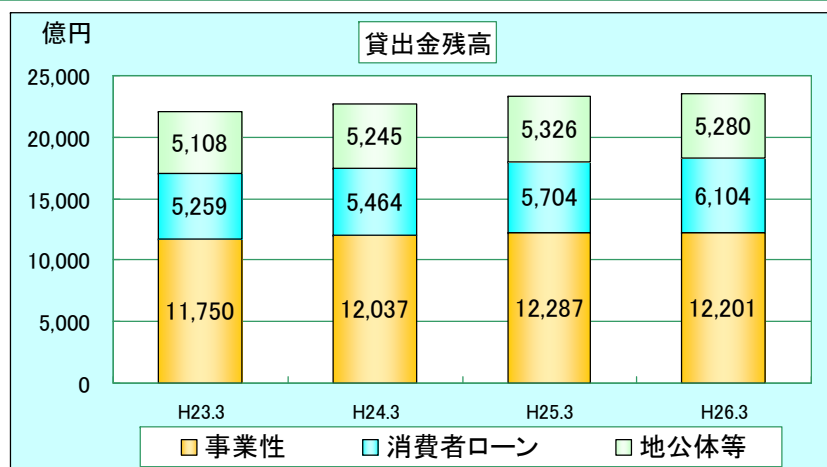
配 当
 ・ 安定配当相当額6円に創立70周年記念配当1円を加えて、年間7円。

貸出金

- 貸出金残高は、消費者ローンが増加し、前期末比+267億円の2兆3,586億円となりました。
- 事業性貸出金は、前期末比△86億円となりましたが、増加基調は維持しております。
- 消費者ローンは、住宅ローンが前期末比+327億円、その他ローン（カードローン、マイカーローン等）が前期末比+72億円となり、ともに順調に増加しております。

○貸出金の内訳（残高）

	H23. 3末	H24. 3末	H25. 3末	H26. 3末	増減 H25. 3末比
事業性貸出	11,750	12,037	12,287	12,201	△ 86
消費者ローン	5,259	5,464	5,704	6,104	400
うち住宅ローン	5,109	5,298	5,489	5,816	327
うちその他ローン	150	165	215	287	72
地公体等	5,108	5,245	5,326	5,280	△ 46
貸出金計	22,118	22,747	23,319	23,586	267



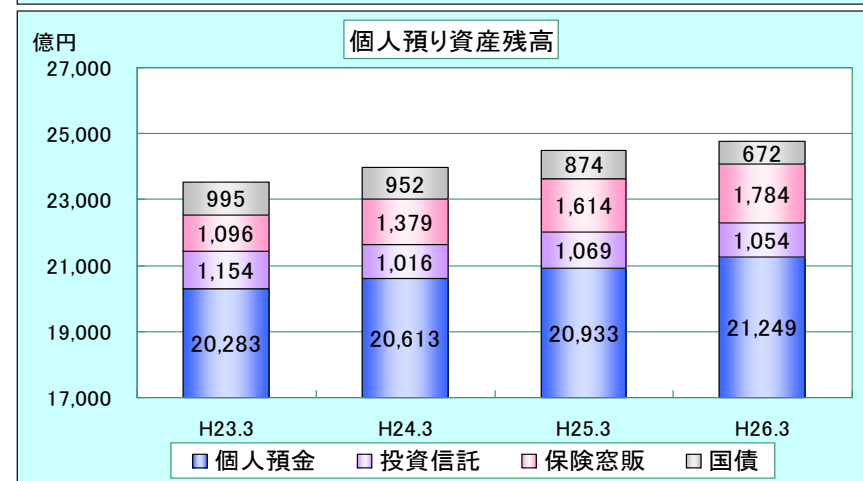
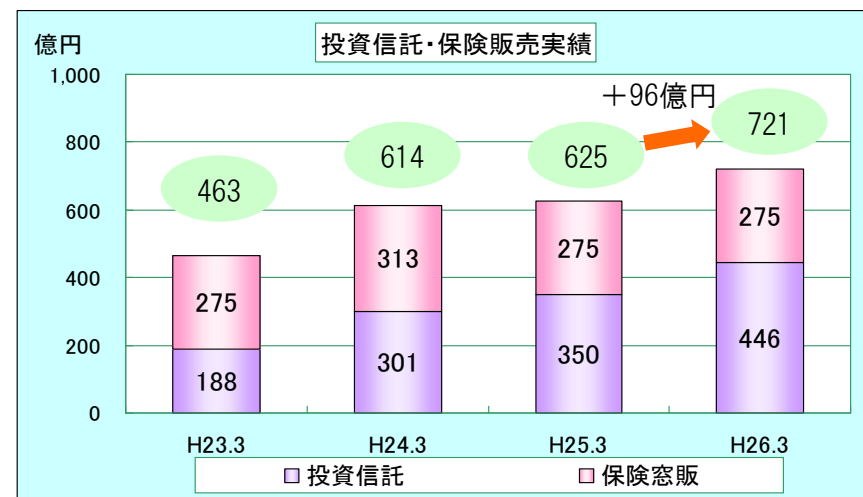
(参考) 貸出金平均残高の推移

	H23. 3期	H24. 3期	H25. 3期	H26. 3期	増減 H25. 3期比
貸出金計	21,225	21,843	22,468	23,138	670

預金・預り資産

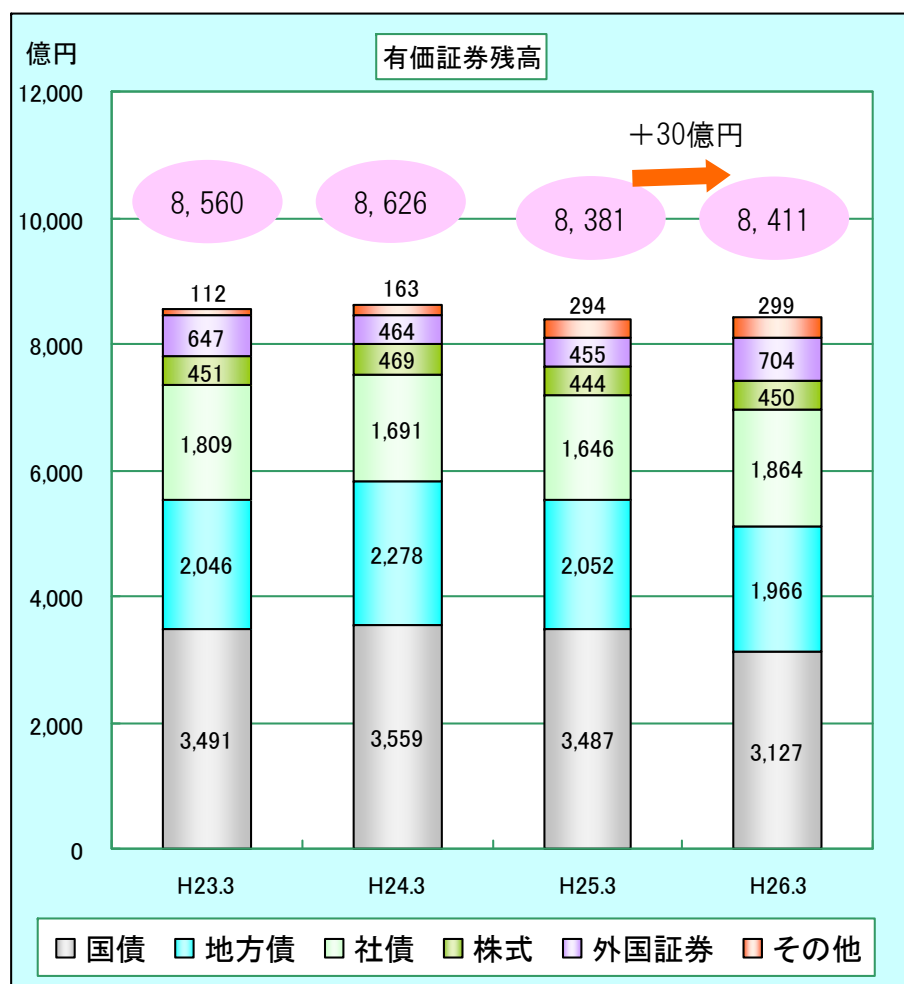
- 預金（含む譲渡性預金）は、個人預金及び公金・金融預金が増加し、前期末比+99億円の3兆1,745億円となりました。
- 個人預り資産では、投資信託の販売が大きく増加した結果、投資信託と保険を合わせた販売実績は前期比96億円増加しました。

○預金等残高



- 有価証券残高は、国債は減少しましたが、社債や外国証券等が増加し、前期末比 +30億円の 8,411億円となりました。
- 有価証券の評価損益は債券は減少しましたが、株式が増加し、全体では前期末比 +25億円の 497億円となりました。

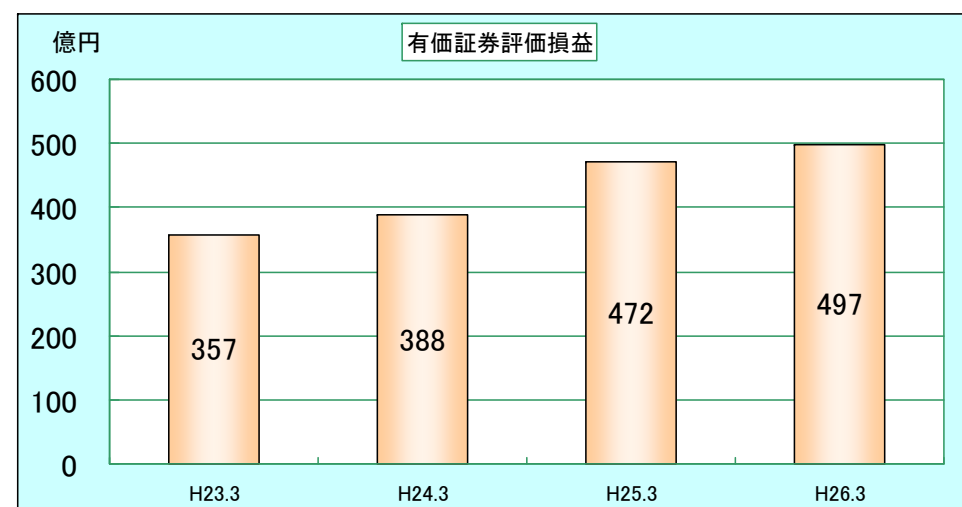
○有価証券残高(取得原価ベース)



○有価証券の評価損益

(億円)

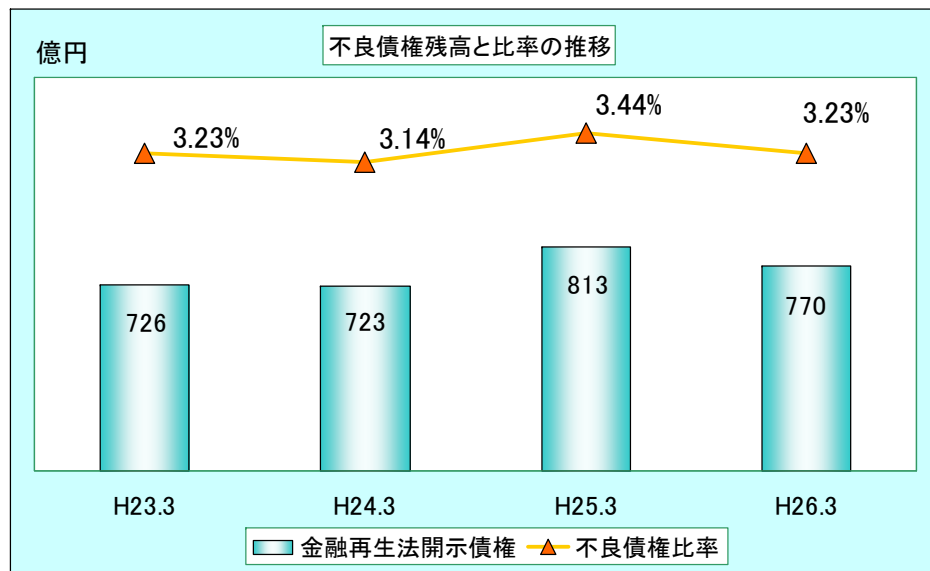
	H23. 3末	H24. 3末	H25. 3末	H26. 3末	増 減 H25. 3末比
評価損益合計	357	388	472	497	25
株 式	260	224	278	349	71
債 券	98	157	184	144	△ 40
そ の 他	△ 1	6	8	4	△ 4



不良債権残高／自己資本比率の状況

- 不良債権比率は大口の不良債権発生等が無かったことから、前期末比 $\Delta 0.21\%$ の 3.23% に低下しました。
- 自己資本比率は、単体は 12.46% 、連結は 13.06% となりました。なお、当年度末よりバーゼルⅢ（国内基準）による自己資本比率を算出しております。

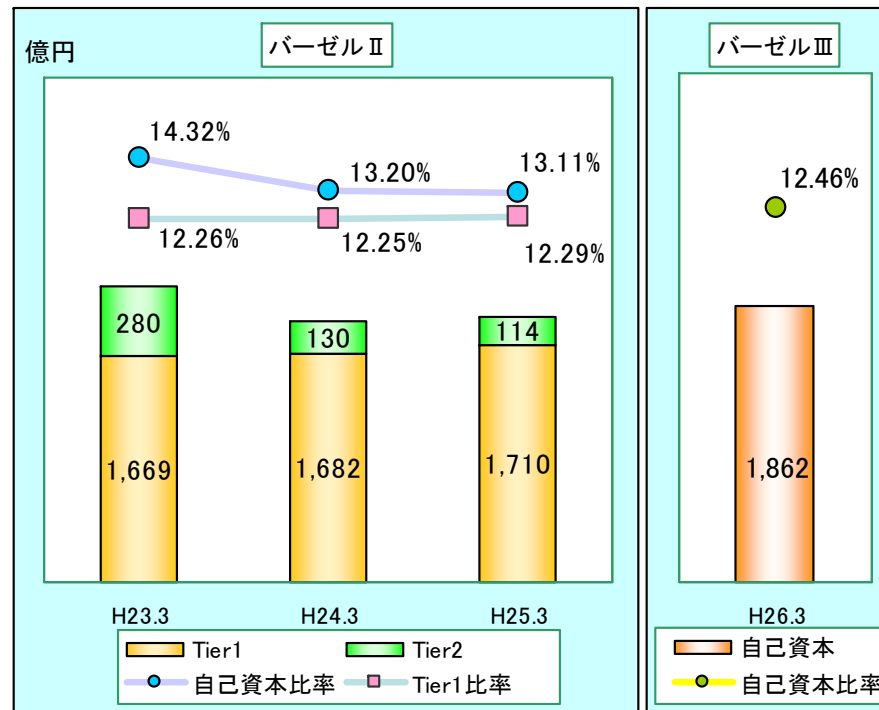
○不良債権残高の状況



	(億円)				
	H23.3末	H24.3末	H25.3末	H26.3末	増減 H25.3末比
破産更生債権等※	179	168	143	128	$\Delta 15$
危険債権	536	493	662	628	$\Delta 34$
要管理債権	11	61	7	14	7
計	726	723	813	770	$\Delta 43$
不良債権比率	3.23%	3.14%	3.44%	3.23%	$\Delta 0.21\%$

※破産更生債権及びこれらに準ずる債権

○自己資本残高と比率の推移(単体)



	25年3月末	26年3月末	
単体自己資本比率	—	12.46%	バーゼルⅢ基準
連結自己資本比率	—	13.06%	バーゼルⅢ基準
(参考) 単体自己資本比率	13.11%	—	バーゼルⅡ基準
(参考) 連結自己資本比率	13.69%	—	バーゼルⅡ基準

平成27年3月期業績予想

- ・ 経常収益は50,000百万円（前期比△5,409百万円）を予想しております。
- ・ コア業務純益は14,500百万円（前期比△2,106百万円）を予想しております。
- ・ 経常利益は12,000百万円（前期比△2,787百万円）を予想しております。
- ・ 当期純利益は6,000百万円（前期比△1,254百万円）を予想しております。

○平成27年3月期業績予想

【単体】 （通期）

（百万円）

	（通期）		（中間期）		
	26年3月期	27年3月期		26年3月期	27年3月期
経常収益	55,409	50,000	経常収益	27,559	25,000
経常利益	14,787	12,000	経常利益	7,376	6,000
当期純利益	7,254	6,000	中間純利益	3,334	3,000
コア業務純益	16,606	14,500	コア業務純益	8,428	7,300

経常収益

- ・ 貸出金や有価証券などの資金運用利回りの低下により、経常収益は前期比減少となる見込み。

コア業務純益

- ・ 資金利益の減少と経費の増加により前期比減少を見込む。
- ・ 経費は、本店移転及びシステム更改に関連する項目で増加を見込む。

【連結】 （通期）

（中間期）

	（通期）		（中間期）		
	26年3月期	27年3月期		26年3月期	27年3月期
経常収益	66,573	60,000	経常収益	33,150	30,000
経常利益	16,798	13,000	経常利益	8,514	6,500
当期純利益	7,855	6,500	中間純利益	3,651	3,200

経常利益

- ・ コア業務純益の減少により、経常利益は前期比減少を見込む。
- ・ 不良債権処理費用予想 通期2,000百万円

当期純利益

- ・ 経常利益減少や特別損益などを考慮し、当期利益は通期6,000百万円を予想。

配当

- ・ 配当は安定配当に加え、配当性向25%～30%を目処とする業績連動型配当の考え方に基づき実施する。
- ・ 年間1株当たり配当金は安定配当相当額の6円を予定。
（中間配当3円、期末配当3円）

1株当たり配当金

年間	うち中間	うち期末
6円00銭	3円00銭	3円00銭